

『時事直言』 No.1455 2021年2月1日

[HP] <http://chokugen.com/>

[FAX] 03-3956-1313

[twitter 日本語] [t_masuda2019/](#)

[instagram] [t_masuda2019/](#)

[mail] info@chokugen.com

[twitter 英語] [T_Masuda_eng/](#)

[Youtube] [増田俊男チャンネル/](#)



時事評論家 増田俊男

歴史の終わりと始まり

フランス・フクヤマの1992年出版の「歴史の終わり」(英文では「歴史の終わりと最後の人間」)は当時世界中の話題になった。

1991年のソ連崩壊は思想・哲学上の民主・共産のイデオロギー対立と民主連合対社会・共産主義連合諸国との戦争で民主側が勝利したことで、以後思想・哲学と政治・経済において民主主義が普遍となり対立の時代が終わったとの結論であった。

冷戦終焉で共産圏を除く世界で民主主義は普遍的真理として教育の基本となった。

私は若かった(53歳)が、「御用哲学が国教になってしまった」と思ったので当時ホノルルの新聞のコラムに「民主主義は真理ではなく御用哲学である」と書いたが嘲笑を買った。

日本で本誌を出し始めた1997年から度々「民主主義は独占資本の御用哲学」と述べ、最近では「小冊子」で何度も「フランス・フクヤマの間違い」を指摘してきた。

増田家の家訓は「波に乗って巧みに泳げ」である。

人間は歴史を変えようとしても、結局は変えることが出来ず、ただ従うのみ。

これが我が家の家訓の教えである。

「人間の歴史は流れである」。

フランス・フクヤマの間違いは民主主義が究極かつ普遍の思想で、人類は自由で民主的な世界に到着したと結論付けた点にある。

ところがフクヤマは最近になって「リベラリズムとそれへの不満」という論文で民主国家が権威主義国家へ向かっていることを認めているが、それがいかなる哲学・思想であろうと時代の流れに迎合して変わって行くことに気が付いていない。

普遍なのは「自由が生命の摂理であること」。

「人間は川面の一本の葦のようにか弱いものである」から「社会(国家)無くして人間無し」であることである。

「国家は秩序」だから、時代によって秩序の守り方が変わる。

今民主主義国家、特に世界に最も大きな影響力を持つアメリカの秩序が乱れ、民主主義では独占資本の利益にならなくなってきた。

資本主義社会では資本(通貨)が神様だから通貨を創造する中央銀行は神様。

日本を除く民主主義国家の中央銀行の株主はユダヤ資本だから、アメリカの政治・経済の変化はユダヤ資本の意志である。

唯一日本だけ、ユダヤ資本は天皇陛下のお墨付きが無くては何も出来ない。

それは何故か。

天皇の国日本、神の国日本！

フィリピンの「山下財宝」の事実をアメリカの公文書情報で詰めている。

明日2月2日の「増田塾」(最終日)で、いかに日本は世界人類にとって重要かつ偉大な国であるか、その秘密について詳しくお話しする。

「時事直言」の文章及び文中記事の引用をご希望の方は、
事前にマスタ U.S. リサーチジャパン株式会社 (FAX : 03-3956-1313) までお知らせ下さい。